

食物負荷試験についてのご説明

食物経口負荷試験は食物アレルギーの診断で最も信頼性の高い検査です。アレルギーを起こすと考えられる食品を実際に食べてみる検査です。

食物アレルギーの診断には血液検査や皮膚テストが行われます。しかしこれらの検査だけでは正確な診断ができない事があります。この場合「食物経口負荷試験」を行い最終的な診断を行います。また、除去していた食品が食べられるようになったかを確認するために行う事もあります。強い反応が起こると考えられる場合は実施しません。

「食物経口負荷試験」では、下記アレルギー症状が起こる可能性があります。

皮膚症状（発赤・腫れ・じんましん など）

消化器症状（腹痛・嘔吐・下痢 など）

呼吸器症状（咳・鼻水・喘鳴・呼吸困難 など）

アナフィラキシーショック など

※ まれに帰宅後にも起こる事もあります。

これらの症状の出現に十分に注意し、準備&対策をとった上で慎重に負荷試験を行います。また、症状が出現した場合は内服・注射・点滴などの処置を行う必要があり、重い症状の場合は入院による治療を必要とする場合もあります。

医療施設名

担当医

食物経口負荷試験に対する同意書

私は、食物経口負荷試験について説明を受け、十分に理解し、食物経口負荷試験を受ける事に同意します。また、生じた症状に対し必要な処置を受ける事に同意します。

平成 年 月 日

患者氏名： _____

保護者氏名： _____（続柄 _____）